

授与する学位の名称	博士(国際日本研究) [Doctor of Philosophy in International and Advanced Japanese Studies]	
人材養成目的	グローバル化する社会の中で、国際的・比較的な視野のもとに日本の文化・社会について人文科学、社会科学、日本語教育学に跨がる研究及び教育能力を有し、その成果を広く国内のみならず海外にも発信していける研究者・教育者、並びに人文科学、社会科学両分野、日本語教育学の各分野の専門的かつ国際的な学識を備え、世界で活躍する人材を養成する。	
養成する人材像	グローバルな視点から現代日本の特質を解明するために幅広い専門的知識と俯瞰的なものを見方を身に付け、そのための基礎的な素養の修得と、幅広い関連領域を学修し、高度専門職、研究職を担う能力のある人材。日本語教育に関しては、国際的な研究・教育領域を掘り下げて研究できる能力、および日本語教育に関する専門的な学識を世界に向けて発信する研究能力、教育能力、高度な専門能力のある人材。	
修了後の進路	研究職・教育職(大学・研究所・民間シンクタンクなど各種研究機関)。それ以外に、企業(海外に現地法人を持つ日本企業・商社、外国企業等)、官公庁・自治体職員、国際公務員、日本語教育機関、国際関係組織・メディア関係など。進路は日本だけでなく、広く海外(シンガポール、ベトナム、中央アジア、南米、中国、タイ、韓国、台湾、等)にも開かれている。	
ディプロマポリシー		
筑波大学大学院学則及び関係規則に規定する博士後期課程の修了の要件を充足したうえで、次の知識・能力を有すると認められた者に、博士(国際日本研究)の学位を授与する。		
知識・能力	評価の観点	対応する主な学修
1. 知の創成力: 未来の社会に貢献し得る新たな知を創成する能力	① 新たな知の創成といえる研究成果等があるか ② 人類社会の未来に資する知を創成することが期待できるか	大学院共通科目、プロジェクト演習 3A, 3B, 4A, 4B などの専門科目、研究指導科目、論文発表に関する科目、博士論文作成、中間発表、学会発表、研究会発表、ポスター発表、論文投稿等
2. マネジメント能力: 俯瞰的な視野から課題を発見し解決のための方策を計画し実行する能力	① 重要な課題に対して長期的な計画を立て、的確に実行することができるか ② 専門分野以外においても課題を発見し、俯瞰的な視野から解決する能力はあるか	大学院共通科目、プロジェクト演習 3A, 3B, 4A, 4B などの専門科目、研究指導科目、演習科目、他研究室と共同の演習科目、インターンシップ科目、達成度自己点検、博士論文作成、中間発表、学会発表、研究会発表、ポスター発表、論文投稿、外部コンテスト等への参加等
3. コミュニケーション能力: 学術的成果の本質を積極的かつわかりやすく伝える能力	① 異分野の研究者や研究者以外の人に対して、研究内容や専門知識の本質を分かりやすく論理的に説明することができるか ② 専門分野の研究者等に自分の研究成果を積極的に伝えたとともに、質問に的確に答えることができるか	大学院共通科目、プロジェクト演習 3A, 3B, 4A, 4B などの専門科目、研究指導科目、演習科目、研究発表に関する科目、中間発表、学会発表、研究会発表、ポスター発表等
4. リーダーシップ力: リーダーシップを発揮して目的を達成する能力	① 魅力的かつ説得力のある目標を設定することができるか ② 目標を実現するための体制を構築し、リーダーとして目的を達成する能力があるか	大学院共通科目、プロジェクト演習 3A, 3B, 4A, 4B などの専門科目、研究指導科目、特別指導科目、他研究室と共同の演習科目、大学院共通科目(JAPIC 科目)、TA(大学院セミナー等) 経験、プロジェクトの参加経験等
5. 国際性: 国際的に活動し国際社会に貢献する高い意識と意欲	① 国際社会への貢献や国際的な活動に対する高い意識と意欲があるか ② 国際的な情報収集や行動に十分な語学力を有するか	大学院共通科目(国際性養成科目群)、比較日本文学論 1A などの専門科目、外国語の演習科目、国際的な活動を伴う科目、外国語文献を利用した博士論文作成、国外での活動経験、外国人(留学生を含む)との共同研究、TOEIC 得点、国際会議発表、英語論文投稿等
6. 研究力: 国際日本研究分野における最新の専門知識に基づいて先端的な研究課題を設定し、自立して研究計画を遂行できる能力	① 国際日本研究分野における先端的な研究課題を設定する能力を身につけたか ② 国際日本研究分野において自立して研究計画を遂行する能力を身につけたか	大学院共通科目、プロジェクト演習 3A, 3B, 4A, 4B などの専門科目、研究指導、博士論文作成、論文投稿、学会発表、研究会発表、ポスター発表等

7. 専門知識:国際日本研究分野における先端的かつ高度な専門知識と運用能力	①国際日本研究分野における先端的かつ高度な専門知識を身につけたか ②国際日本研究分野における専門知識の総合的な運用能力を身につけたか	大学院共通科目、比較日本文学論 1A などの専門科目、研究指導、博士論文作成、中間発表、論文投稿、学会発表、研究会発表、ポスター発表等
8. 倫理観:国際日本研究分野の研究者にふさわしい倫理観と倫理的知識、および専攻する特定の分野に関する深い倫理的知識	①国際日本研究分野の研究者または高度専門職業人にふさわしい倫理観と倫理的知識を身につけたか ②専攻する特定の分野に関する深い倫理的知識を身につけたか	大学院共通科目(生命・環境・研究倫理科目群)、研究法入門、国際日本研究のための日本語、国際日本研究のための英語、プロジェクト演習 3A, 3B, 4A, 4B などの専門科目、演習科目、研究指導、博士論文作成、中間発表、INFOSS 情報倫理、APRIN e-learning 等

学位論文に係る評価の基準

(審査体制)

- (1) 専門委員会委員(審査専門委員)のうち、少なくとも主査1人(研究指導)と副査2人(研究指導または授業担当)の合計3人は、当該審査研究群教員会議の構成委員から指名するものとし、主査1人と副査の半数以上は、人文社会科学研究群(博士後期課程)国際日本研究学位プログラム教育会議の構成委員から指名するものとする。
- (2) 人文社会科学研究群(博士後期課程)国際日本研究学位プログラムに所属する審査専門委員のうち少なくとも1人は、博士の学位を有する者であるものとする。
- (3) 人文社会科学研究群(博士後期課程)国際日本研究学位プログラムに所属する審査専門委員のうち少なくとも1人は、審査専門委員会解散後引き続き1年以上にわたって国際日本研究学位プログラム(博士後期課程)教育会議構成員の研究指導担当教員であるものとする。
- (4) 本学教員で大学院・研究群の授業担当教員でない場合にも、当該学位論文審査に不可欠であると認定される場合には、その者を審査専門委員会の副査に加えることができる。
- (5) 当該学位論文審査専門委員会に不可欠であると認定される場合には、本学の他の大学院・研究群等、他大学の大学院又は他の研究所等の教員等を審査専門委員会の副査に加えることができる。

(評価項目)

学位論文の審査は次の項目に基づいて行っていること

- ① 課題の設定が適切であり、かつ独創性を有していること
- ② 論旨が明確であり、かつ一貫性を有していること
- ③ 正確な用語を用いて完成度の高い分析を行っていること
- ④ 先行研究の成果を十分に把握し、かつ発展的に運用していること
- ⑤ 文献・資料を適切に使用していること
- ⑥ 体裁及び構成が適切であること
- ⑦ 当該分野において高度な学術水準に達し、かつ新たな学術的貢献が認められること

(評価基準)

上記の評価項目すべてを満たす学位申請論文を、最終試験又は学力の確認を経た上で、合格とする。

カリキュラム・ポリシー

人文科学、社会科学、日本語教育学の3領域を横断する国際日本研究の高度な研究力・先端的な専門知識・深い倫理観とともに、人文社会科学の幅広い基礎的素養、人文社会ビジネスにわたる広い視野、社会の多様な場での活躍を支える汎用的知識・能力を養う教育・研究指導を行う。

教育課程の編成方針

学生の主たる研究関心を軸として、関連する分野の基礎的素養や広い視野、汎用的知識・能力の涵養に資するよう大学院共通科目、研究群共通科目から1単位を履修することを推奨する。

- ・大学院共通科目、プロジェクト演習 3A,3B,4A,4B などの専門科目、博士論文作成、学会発表などにより、未来の社会に貢献し得る新たな知を創成する能力(1. 知の創成力)を身に付ける。
- ・大学院共通科目、プロジェクト演習 3A,3B,4A,4B などの専門科目、達成度自己点検、外部コンテスト等への参加などにより、俯瞰的な視野から課題を発見し解決のための方策を計画し実行する能力(2. マネジメント能力)を身に付ける。
- ・大学院共通科目、プロジェクト演習 3A,3B,4A,4B などの専門科目、学会発表、ポスター発表などにより、学術的成果の本質を積極的かつ分かりやすく伝える能力(3. コミュニケーション能力)を身に付ける。
- ・大学院共通科目、プロジェクト演習 3A,3B,4A,4B などの専門科目、TA(大学院セミナー等)経験、プロジェクトの参加経験などにより、リーダーシップを発揮して目的を達成する能力(4. リーダーシップ力)を身に付ける。
- ・大学院共通科目、比較日本文学論 1A などの専門科目、国外での活動経験、外国人(留学生を含む)との共同研究、TOEIC、国際会議発表、英語論文作成などにより、国際的に活動し国際社会に貢献する高い意識と意欲(5. 国際性)を身に付ける。

	<ul style="list-style-type: none"> ・大学院共通科目、プロジェクト演習 3A,3B,4A,4Bなどの専門科目、研究指導、博士論文作成、学会発表などにより、人文社会科学分野及び国際日本研究分野における最新の専門知識に基づいて先端的な研究課題を設定し、自立して研究計画を遂行できる能力 (6. 研究力) を身に付ける。 ・大学院共通科目、比較日本文学論 1Aなどの専門科目、研究指導、博士論文作成、学会発表などにより、人文社会科学分野及び国際日本研究分野における先端的かつ高度な専門知識と運用能力 (7. 専門知識) を身に付ける。 ・大学院共通科目 (生命・環境・研究倫理科目群)、プロジェクト演習 3A,3B,4A,4Bなどの専門科目、研究指導などにより、人文社会科学分野及び国際日本研究分野の研究者にふさわしい倫理観と倫理的知識、および専攻する特定の分野に関する深い倫理的知識 (8. 倫理観) を身に付ける。
学修の方法 ・プロセス	<ul style="list-style-type: none"> ・「プロジェクト演習」は、博士論文の構想や中間成果を多数の教員や博士後期課程の学生たちの前で発表することで、プレゼンテーション能力を高めつつ研究を深めてゆくことをめざす。 ・他の専門科目は研究テーマと関連の深い領域の高度な演習を通じて、関連する幅広い知識を習得しつつ博士論文の構想を彫刻することをめざす。 ・8つのコンピテンスそれぞれについて修得基準を設け、1年次終了までに基準の5割以上、2年次終了までに基準の7割以上、3年次終了時に基準を満たすことを目指して学修する。修得基準は学生に対して別途掲示する。 <ol style="list-style-type: none"> 1. 知の創成力 2. マネジメント能力 3. コミュニケーション能力 4. リーダーシップ力 5. 国際性 6. 研究力 7. 専門知識 8. 倫理観
学修成果の評価	<ul style="list-style-type: none"> ・「プロジェクト演習」では博士論文構想のプレゼンテーションに対する質疑応答によって今までの研究成果を批判的に評価することを通して、博士論文完成への道程のなかでの自分の位置づけや今後の研究の方向性を明確にし、他の専門科目においても演習のテーマと博士論文の研究テーマとを有機的に関連付けるような発表をし、教員や他の参加学生との間での議論によって既存の自分の発想やその成果を批判的に評価することを通して研究のレベルを高める。最終的には博士学位請求論文の公開ヒアリング、予備審査および本審査を通じて学修成果が評価される。 ・コンピテンスの達成度は、以下のように評価する。 <ol style="list-style-type: none"> ①1年次終了時に、「プロジェクト演習」3A または 3B で指導教員が評価を行い、2年次の習得について指導する。 ②2年次終了時に、「プロジェクト演習」4A または 4B で指導教員が評価を行い、3年次の習得について指導する。 ③博士論文予備審査で指導教員が評価を行い、1～8 のいずれかの知識・能力において習得基準を満たしていないか、満たす見込みがない場合は不合格とする。
アドミッション・ポリシー	
求める人材	<p>国際的・比較的な視野のもとに日本の文化・社会について研究し、その成果をもとに、日本や東アジアを中心に世界が抱えるさまざまな問題に主体的に取り組んでいく意欲をもつ学生および社会人。後期課程ではこのような問題に対して研究者としてあるいは高度な研究能力を持つ職業人として、正面から取り込む意欲を持つ学生や社会人を広く求める。日本語教育に関しては国際的な研究・教育領域を掘り下げて研究し、日本語教育に関する専門的な学識を世界に向けて発信する意欲を持つ学生および社会人。後期課程ではこうした課題に対して研究者としてあるいは高度な研究能力を持つ職業人として、正面から取り込む意欲を持つ学生や社会人を広く求める。</p>
入学者選抜方針	<p>入学者の選抜にあたっては、一般入試、推薦入試、社会人特別選抜などの入学者選抜方式によって多様な入学志願者に対応するとともに、募集人員を分割し、同一年度に複数回の入学試験を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一般入試では、専門科目の筆記試験、及び口述試験を実施し、総合的に判定する。専門科目は、国際日本研究に関係する「政治」「経済」「文学・文化・思想」「法律・社会・メディア・情報」「言語学」「日本語教育学」の分野から1つ出願時に選択した科目について日本語または英語（「日本語教育学」は日本語のみ）で解答させ、博士後期課程において高度な国際日本研究を遂行しうる専門的能力、研究しようとしている分野の専門的知識を判定する。専門科目は、博士論文を執筆する言語で解答させるので、解答における語学力、及び修士論文や研究計画書等の書類の語学力で判定するため、外国語の筆記試験は行わない。口述試験は、研究計画書等を参考とし、学修成果や思考力、語学力、研究に対する情熱・意欲、研究しようとしている分野の専門的知識に加え、プレゼ

ンテーション能力やコミュニケーション能力も判定する。

- 推薦入試では、小論文の筆記試験、及び口述試験を実施する。推薦入試は、研究者として大学等研究機関に就職することを目指す修士の学位を取得した、あるいは取得予定の学生、もしくは海外の大学教員や高度職業人を対象とする。受験者は、修士の学位を取得しているか、取得予定であるため、専門科目の試験に代えて、小論文により、専門分野に関する知識、理解力、論理的思考能力等、博士後期課程において高度な国際日本研究を遂行しうる専門的能力を判定する。口述試験は、研究計画書等を参考とし、国際日本研究に正面から取り組む意欲、研究計画、本学位プログラムを志望する理由、研究しようとしている分野の専門的知識に加え、プレゼンテーション能力やコミュニケーション能力なども判定する。
- 社会人特別選抜では、専門科目の筆記試験及び口述試験を実施する。社会人特別選抜は、社会人としての経験を有している者を対象としている。専門科目は、国際日本研究に関係する「政治」「経済」「文学・文化・思想」「法律・社会・メディア・情報」「言語学」「日本語教育学」の分野から1つ出願時に選択した科目について日本語または英語（「日本語教育学」は日本語のみ）で解答させ、高度な国際日本研究を遂行しうる専門的能力を判定する。口述試験は、研究計画や社会人として得られた問題意識、研究しようとしている分野の専門的知識に加え、プレゼンテーション能力やコミュニケーション能力なども判定する。